

1. 科目名 (単位数)	財務会計特論 (2単位)	名古屋	3. 科目番号	SSMP5357				
2. 授業担当教員	陳 森							
4. 授業形態	テキストを中心としたディスカッション		5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		履修形態 (通信教育)	R				
7. 講義概要	<p>会計を学ぶことは、事業経営に成功するための道しるべを作る作業になる。会計を身につけることは事業を成功に導くために不可欠なことであるが、会計を取めることは会計のルールを覚えることではなく、会計情報を読みこなし、経営改善に役立てられるようにすることであることを忘れてはならない。</p> <p>そこで、本講座では、学部レベルの会計学の一定の知識があることを前提に、会計情報の役立て方を、テキストをベースとしたディスカッションによって学び取ってもらう。その上で、一般企業の会計とは異なる目的を持つ社会福祉法人の会計制度について、非営利事業体ならではの特徴を含め、学ぶこととする。社会福祉法人の会計基準は平成 23 年 7 月に改訂され、平成 27 年度予算から全面的に新基準が適用された。適用されていくことになった新基準に基づいた講義を行う。</p>							
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計の役割を理解し、事業経営に対する会計の重要性を理解する。 2. 会計情報を読み解き、経営改善に役立てられるようになる。 3. 一般的な会計基準と社会福祉法人の会計基準の異同を理解する。 4. 社会福祉法人の会計基準を理解し、社会福祉法人の経営に役立てるようになる。 							
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントを課すことはないが、予習・復習を前提とした講義であることに留意すること。学期末締切りの課題レポートを課す。レポートは課題に対する的確な意見を求めるため、字数制限を設ける。							
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 林總『餃子屋とフレンチでは、どちらが儲かるか?』PHP 文庫、2011 年 社会福祉法人の会計については別途プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 会計学初学者については、 櫻井久勝・須田一幸編『財務会計・入門【第 8 版】』有斐閣アルマ、2013 年 確井悟史・柴田寛幸『入門会計学テキスト【第 4 版】』中央経済社、2006 年 梶岡源一郎編『図解でナットク! 会計入門』中央経済社、2015 年など、 一般的な会計学のテキストは優れた書が多いので、自分でよく見て理解しやすいものを一読して下さい。 その他、講義中に適宜指示する。</p>							
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財務会計情報のもつ意味を理解できているか 2. 財務会計情報を活用することができるか 3. 一般企業の会計と社会福祉法人の会計の違いを理解できているか <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 講義中の発言</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート</td> <td>60%</td> </tr> </table>				1. 講義中の発言	40%	2. 課題レポート	60%
1. 講義中の発言	40%							
2. 課題レポート	60%							
12. 受講生へのメッセージ	<p>将来、独立して、自分の店舗を構える場合には、面倒な総務・経理の事務仕事も自分で行うことが必要になります。そのときに困らないよう、独立前から準備しておくべきでしょう。この講座では、受講生とのディスカッションを交えながら、進めていきます。ペースが速く、本学の特徴である双方向対話型授業を行うためにも、予習を前提とします。学んだことを的確に知識として定着させるためには、間を空けずに復習することが肝要です。予習・復習を怠れば、ついていけなくなる可能性が高いので、予習・復習ができないのであれば、選択しないで下さい。また、大学時代に会計学の講義を受講していない方についてはフォローをしますが、初回講義までに参考文献である入門テキストのいずれかを読んできて下さい。</p>							
13. オフィスアワー	別途通知する							
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】								
1. テーマ	ガイダンス・会計が持つ役割							
	<p>【学習の目標】 会計が持つ役割とその目的を理解する。 【学習の内容】 会計が持つ情報発信機能と内部管理機能の役割と目的を理解する。 【キーワード】 財務会計、管理会計、監査論、税務会計、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書、公認会計士 【学習の課題】 財務会計と管理会計の違い、公認会計士の役割を理解する。</p>							
2. テーマ	会計の本質と損益計算書の本質							
	<p>【学習の目標】 損益計算書から読み取ることができるものは何であるかを理解する。 【学習の内容】 会計のルールが相対的な真実を求めるものでしかない以上、会計が描き出す会計数値は要約された近似値にすぎないことを理解する。 【キーワード】 損益計算書 (P/L)、収益、費用、売上総利益、営業利益、経常利益、当期純利益、真实性の原則、継続性の原則 【学習の課題】 損益計算書が示す経営成績の本質的意味を理解する。</p>							
3. テーマ	貸借対照表を理解する							
	<p>【学習の目標】 貸借対照表から読み取ることができるものは何であるかを理解する。 【学習の内容】 貸借対照表が資金の運用状況と調達先を示していることを理解する。 【キーワード】 貸借対照表 (B/S)、現預金、流動資産、固定資産、繰延資産、流動負債、固定負債、純資産、自己資本、他人資本、純資産利益率 (ROA)、自己資本利益率 (ROE) 【学習の課題】 貸借対照表が示す財政状態の本質的意味を理解する。</p>							
4. テーマ	キャッシュフロー経営とは何か							
	<p>【学習の目標】 キャッシュフロー計算書から読み取ることができるものが何であるかを理解する。 【学習の内容】 事業の中で流れているお金の流れの元がどこにあるのかを理解し、損益計算書が示す経営成績や貸借対照表が示す財政状態から示される利益計算と手元に残るはずの現金が感覚としてずれている原因を理解できるようになり、キャッ</p>							

	<p>シフフローに基づいた経営ができるようになる。</p> <p>【キーワード】 キャッシュフロー計算書 (C/F)、資金繰り、在庫、資金回転率、利益率、営業循環基準、ワンイヤールール、営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー</p> <p>【学習の課題】 キャッシュフロー計算書が示すデータを経営に生かせるようになる。</p>
5. テーマ	経営計画と月次決算のPDCAサイクル
	<p>【学習の目標】 月次決算の必要性を理解し、経営計画の実効性を高めることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 月次決算を行うことにより、予算と実績値との異同をチェックし、その原因を考えることによって、経営計画の実効性を高めることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 月次決算、年次決算、経営計画、予算、標準原価、PDCA サイクル</p> <p>【学習の課題】 会計におけるPDCAサイクルを回せるようになる。</p>
6. テーマ	利益構造と損益分岐点分析
	<p>【学習の目標】 ビジネスモデルの違いによる利益構造の違いを理解する。</p> <p>【学習の内容】 どのようなビジネスモデルを選択するかによって、追求する利益の獲得方法が異なるので、ビジネスモデルと経営戦略がリンクしなければならないことを理解できるようになる。</p> <p>【キーワード】 限界利益、固定費、変動費、損益分岐点、限界利益率、ビジネスモデル</p> <p>【学習の課題】 追求する利益構造に適したビジネスモデル・経営戦略を採用することができるようになる。</p>
7. テーマ	コーポレートブランド経営と会計の役割
	<p>【学習の目標】 ブランド価値の本質を理解する。</p> <p>【学習の内容】 ブランド価値を高めるための方策としての集中戦略が、財政状態を改善できることを理解し、経営改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 ブランド価値、割引現在価値、株主価値、株式時価総額法、ディスカウントキャッシュフロー法 (DCF)、無形資産、知的財産権</p> <p>【学習の課題】 ブランド価値が示すことの本質的な意味を理解する。</p>
8. テーマ	粉飾決算の見破り方
	<p>【学習の目標】 粉飾決算を見破ることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 粉飾決算の代表的な手口を理解し、不自然な動きを見せる勘定科目に注目できるようになることで、粉飾決算を見破ることができるようになる。会計の専門家になるわけではない本学院生がよく理解しておく必要があるところだ。</p> <p>【キーワード】 粉飾、逆粉飾、在庫の水増し、単価操作、架空取引、材料、仕掛品、製品、商品、売掛金、仮払金、繰延資産、3期比較</p> <p>【学習の課題】 粉飾決算の見破り方を理解する。</p>
9. テーマ	原価管理と活動基準原価計算
	<p>【学習の目標】 製品原価の引き下げのためにできることを理解する。</p> <p>【学習の内容】 製品原価を構成する①工場の維持費、②材料費、③製造スピードの3つを、会計数値により可視化することができるようになることにより、製品原価を引き下げることができるようになる。</p> <p>【キーワード】 原価計算、製品原価、標準原価、活動基準原価計算、リードタイム、ジャストインタイム</p> <p>【学習の課題】 工場の維持費・材料費の引き下げと製造スピードの向上がなぜ製品原価の引き下げにつながるのかを理解する。</p>
10. テーマ	機会損失と意思決定
	<p>【学習の目標】 機会損失の概念を理解し、経営の改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 製品原価の引き下げのために、人件費等のコストが安い外国等に進出することの是非を判断できるようになる。</p> <p>【キーワード】 機会損失、埋没原価、差額原価、戦略的意思決定、戦術的意思決定、外国進出、生産委託、自製</p> <p>【学習の課題】 機械原価を最小にする判断ができるようになる。</p>
11. テーマ	会計数値の裏側、逆粉飾を見破る
	<p>【学習の目標】 会計数値から分析できることとできないことを区別できるようになり、会計数値をきっかけとして経営改善に役立てることができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 会計の持つ限界を理解した上で、現場で何が起きているのか、机上ではなく、現場に赴いて原因を明らかにすることが、経営改善において最も重要なことであることを理解する。</p> <p>【キーワード】 クレーム、逆粉飾、会計処理の変更、バランス・スコアカード (BSC)</p> <p>【学習の課題】 会計の持つ限界を理解し、経営の真実の姿を捉えることができるようになる。</p>
12. テーマ	社会福祉法人の財務諸表・公益事業の範囲
	<p>【学習の目標】 一般的な会計と社会福祉法人の会計との異同を理解する。</p> <p>税法が限定列挙する公益事業の範囲と公益事業が行う営利事業に対する課税のあり方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 一般的な会計は営利目的企業を前提として考えているが、社会福祉法人は非営利事業ならではの特徴を持っている。その異同を理解し、それゆえの会計制度の異同を理解する。公益事業の範囲と税金について理解する。</p> <p>【キーワード】 資金収支計算書、事業収支計算書、公益事業、収益事業、流山NPO事件、ペット葬祭料事件</p> <p>【学習の課題】 非営利事業である社会福祉法人ならではの会計制度を理解する。税金が会計に与える影響を考え、公益事業に対する税制を理解する。</p>
13~14. テーマ	社会福祉法人会計の具体的内容
	<p>【学習の目標】 一般企業と社会福祉法人の会計基準の具体的な移動を理解する。</p> <p>【学習の内容】 社会福祉法人独特の会計の在り方が一般企業会計とどのように異なるのかを理解する。</p> <p>【キーワード】 徴収不能引当金、基本金、国家補助金等特別積立金、減価償却、リース資産、給与、賞与、みなし役員</p> <p>【学習の課題】 一般の企業会計と社会福祉法人会計の異同を理解し、社会福祉法人の会計担当者となっても対応できるようになる。</p>
15. テーマ	社会福祉法人の新しい経営分析
	<p>【学習の目標】 社会福祉法人の財務諸表を読み取り、経営に活かすことができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 各種の分析手法を理解し、経営改善に活かす方法を理解する。</p> <p>【キーワード】 収益関係指標、収益対費用関係指標、損益分岐点分析、事業計画</p> <p>【学習の課題】 経営改善に活かす会計情報から事業計画書を策定できるようになる。</p>